

※右の【〇〇のポイント】で取り上げていない活動は、授業の時間配分や指導の実態に応じて、適宜扱う。

Unit 4 He can bake bread well. (pp.38-39) 1/8 時間

<目標>

地域に住む身近な人のできることなどについてのやり取りのおおよその内容を理解する。

時間	児童の活動
導入 (7分)	・挨拶をする。
	【Let's Sing】 This is my town. ・曲を聞き、歌えるところを歌う。
	【Small Talk】 ・指導者からの質問に Yes, I can./No, I can't. と答える。
展開 (30分)	【Word Link】 PD の p.18 動作など (1) ・「動作など (1)」の単語を復唱する。
	【Let's Try①】 例：ポインティングゲーム ・言われた PD の単語を指す。 ・指導者の示す絵カードの単語を言う。
	【Let's Chant】 ②I can swim. ③Can you swim fast? ・チャンツを聞き、言えるところを言う。
	【Starting Out】 ・No.1～5 の音声を聞いて、A～E の□に聞こえた順に番号を記入する。 ・答え合わせをする。 ・音声や映像から分かったことや気付いたことなどを WS の 1 に記入する。 ・分かったことや気付いたことなどを発表する。
	【評価例】 ○主(聞)相手のことをよく知るために、地域に住む身近な人のできることなどについて、短い話の概要を捉えようとしている。
文字指導 (5分)	【Sounds and Letters】 ・指導者が続けて言う 3 文字の名前を書きとる。
まとめ (3分)	・挨拶をする。

【Sounds and Letters】は、毎時間 5 分とれるように時間配分して行う。

【この時間のポイント】

Unit 4 の Starting Out では、A～E の場面がそれぞれ「それがどこか、または誰か」、「できること、できないこと」、「関連した情報」の内容があり、これまでの単元と違ってどれも同じ重みを持つ言語材料が扱われる。そのため、それぞれの場面に、紹介する表現 “This is ...”, 「～できる」を表す can と動作を表す言葉、自分以外の人を表す He/She など初めて出会う語句や表現が多く含まれ、一度にその内容を聞き取るのは難易度が高い。

そこで、指導書の指導計画とは異なるが、次のように聞き取る中心の表現を第 1 時と第 2 時で分けて指導する。

第 1 時では、紙面の絵から得る情報を手がかりに、Who is this? This is He/She is などの表現や聞き取れた単語から話されている場所(人)を選ぶ。

第 2 時では「できる・できない」ことを I/He/She can (can't) ...から丁寧に聞き取る。

そのため、第 1 時では Small Talk, Let's Chant を行う順番や扱う内容を変更している。

【Let's Sing のポイント】 This is my town. は「自分の町のことを扱う」、「町にあるもの」、「町に住んでいる人」が出てくるという単元のイメージを持たせると考え、歌わせることまでを目指さなくてもよい。歌を聞いて、自分たちの町にもいろいろな場所があり、人がいるという I love my town. のメッセージを感じ取らせ、「身近な人を紹介しよう。」という単元の目標の確認につなげる。

【Let's Chant のポイント】 「エミリーの町の人を見てみよう」と呼びかけ、①Who is this? を聞く(聞いたすぐ後にリピートできる間があるので、聞こえるままにまねて言わせてもよい)。その後、Who is this? の意味を問いかける。ここで「困り感ショートコント」を見せて、Who is this? の意味を確認させるとよい。そして、再度 Let's Chant をまねて言わせる。

【Small Talk のポイント】 Let's Chant①を受けて、He/She is... を導入するための Small Talk をする。チャンツに出てくる人の絵、学校の先生の写真、有名人などの写真などを見せたり、学級の児童を指したりして話しかける。児童とやりとりしながら He と She の使い方が分かるように工夫することが大事である。
T: Who is this? S: This is Sato-sensei. T: Yes. He is a music teacher.
T: Who is this? S: This is Yamada-sensei. T: Yes. She is an English teacher. など
「This is は人だけでなく町にあるものも紹介できるよ」と伝えて、Starting Out につなぐ。

【Starting Out のポイント】 「エミリー達の町にあるものや人を見てみよう」と呼びかけて始める。次の 2 点がポイントになる。
1. エミリー達の町には何があるのか問いかけ、soccer ball, flower, library, post office など紙面に見えるものを児童といっしょに英語で言って予測しながら、聞かせる準備をする。
2. デジタル教材の「通し再生」を一場面ごとに「一時停止」で止め、どの場面のことか、また、どのような英語が聞こえたか尋ねる。「できる、できない」の表現はまだ触れていないので、細かく意味を確認するのではなく、library, kick, skate, jump, cook など聞き取れた言葉からどの場面のことか推測させる。

A～E それぞれに対して A4 程度の用紙を黒板に貼って、児童が聞き取れた言葉をメモとして 1 時間目、2 時間目と書き足していくとよい。

時間があれば、場面 1 から順に児童達が発表した言葉が本当に聞こえるかどうかという意識をもたせながら音声を再度聞かせたい。



Unit 4 He can bake bread well. (pp.38-39) 2/8 時間

<目標>

地域に住む身近な人のできることなどについてのやり取りのおおよその内容を理解する。

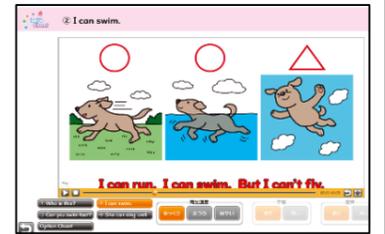
時間	児童の活動
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶をする。 <p>【Let's Sing】 This is my town.</p> <ul style="list-style-type: none"> 元気に歌う。
展開 (30分)	<p>【Word Link】 PD の p.22 建物など</p> <ul style="list-style-type: none"> 「建物など」の単語を復唱する。
	<p>【Let's Try①】 例：ポインティングゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> 言われた PD の単語を指す。 指導者の示す絵カードの単語を言う。
	<p>【Let's Chant】</p> <p>①Who is this? ④She can sing well.</p> <ul style="list-style-type: none"> チャンツを聞き、言えるところを言う。
	<p>【Starting Out】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時記入した WS の 1 を見ながら、No.1～5 の音声や映像を視聴する。 No.4(B)の音声や映像を視聴し、WS の 2 に答えを記入する。 答え合わせをする。 No.4(B)の音声や映像をもう一度視聴する。 <p>【評価例】 ○主（聞）相手のことをよく知るために、[地域に住む身近な人のできることなどについて、] 短い話の概要を捉えようとしている。／○知（聞）I/You/He/She can ～., Can you ～?, Who is ～?, This is ～. およびその関連語句などについて、理解している。／○技（聞）[同上] 聞き取る技能を身に付けている。</p>
文字指導 (5分)	<p>【Sounds and Letters】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音声聞いて、アクセントのある場所をぬりつぶす。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 前時および本時の活動を振り返る。 振り返りシートに記入する。 挨拶をする。

【この時間のポイント】 第2時では、「できる、できない」の表現を理解し、Starting Out の映像から話されている内容をさらに理解することに焦点を当てる。

「できる、できない」の表現を Let's Chant と Word Link など理解させてから、Starting Out の「できる、できない」の内容を映像資料で再度聞き取らせる。第1時で聞き取れた kick, read, jump, speak などは「できるのかできないのか」という判断をしながら映像を見ることになる。ジェスチャーも手がかりになり、理解しやすいと思われる。最後は、Let's Watch and Think にも挑戦させたい。

【Let's Sing のポイント】 This is my town.は、授業開始前からかけておいて雰囲気作りとして使うとよい。授業の中では、「歌えるところを歌おう」と声をかけたうえで歌うのもよい。

【Let's Chant のポイント】 ※扱うチャンツを②I can swim.に変更。
まず、②I can swim.を聞いて、「できることやできないことを言っている」ことを理解させる。
例えば「犬ができること、できないこと」がそろった時点でチャンツを一時停止して、児童といっしょに確認することもできる。



【Word Link のポイント】 ※「建物など」は Unit 5 でも再度扱うので、ここでは取り上げていない。
Word Link や Let's Try のワードゲームなどを使って I canの言い方を練習できる。全ての動詞を扱うことが難しければ、最初から6個 (sing, run, jump, dance, swim, skate) までの絵を使い、I can sing well. I can run fast. I can jump high. I can dance well. I can swim fast. I can skate well. と口慣らしをするのもよい。

【Let's Chant のポイント】
④She can sing well.も扱う。「ひろしが紹介するよ」「エミリーが紹介するよ」と状況を確認しながら進めたい。一文ごとにまねて言って何度か練習させたい。Starting Out にある表現が多いので、理解しやすいと思われる。

【Starting Out のポイント】 本時は、映像教材を使ってその場所や人（第1時に聞き取ったことの復習）と第1時に少し聞き取れたこと（例えば kick や skate など）ができると言っているのか、できないと言っているのかを話し手のジェスチャーなども手がかりにして聞かせる。第1時に使用したメモに児童が聞き取ったことを簡単に付け足していくとよい。

また、自分 (I) または自分以外の人 (He, She) のどちらが「できる、できない」と言っているのかも考えさせながら He や She の音声に注意して聞かせ、その He や She は誰のことかをたずねて、男女による使い分けも意識させたい。

エミリーの町の人や動物紹介がだいたい理解できたら、単元の目標を再確認しておきたい。身近な人を「誰に」「どのような場面や状況で」紹介するのか、Enjoy Communication の言語活動への見通しを持たせ、意欲を高めておく。

【Let's Watch and Think のポイント】 児童自身の理解の確認として取り組ませたい。

Unit 4 He can bake bread well. (pp.40-41) 3/8 時間

<目標>

できること・できないことについて聞き取り，先生や友達とたずね合う。

時間	児童の活動
導入 (7分)	・挨拶をする。
	【Let's Sing】 This is my town. ・元気に歌う。
	【Small Talk】 ・指導者からの質問に Yes, I can. / No, I can't. と答える。
展開 (30分)	【Word Link】 PD の p.25 楽器 ・「楽器」の単語を復唱する。
	【Let's Chant】 ②I can swim. ③Can you swim fast? ・チャンツを聞き，言う。
	【Let's Listen①】 ・音声を聞いて，できることに○，できないことに△を付ける。 ・答え合わせをする。
	【評価例】 ○思（聞）相手のことをよく知るために，身近な人のできることなどについて，短い話の概要を捉えている。
	【Let's Try②】 ・指導者のできることやできないことを予想して，指導者にインタビューをする。 ・友達にできることやできないことについて，インタビューをして，できる人の名前を紙面の（ ）に記入する。
	【評価例】 ◎知（話・や） [I can ～., Can you ～?およびその関連語句など] について，理解している。／◎技（話・や）《できることなどについて，》 [同上] を用いて，お互いの考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。／○思（話・や）自分のことを伝え，相手のことをよく知るために，《同上》簡単な語句や基本的な表現を用いて，お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。
文字指導 (5分)	【Sounds and Letters】 ・指導者が続けて言う3文字の名前を書きとる。
まとめ (3分)	・挨拶をする。

【この時間のポイント】

ここでは I can/can'tの表現から「できることやできないこと」について聞き取り， Can you ...?/Yes, I can./No, I can't.を使って相手と尋ね合うことをめざす。

誰でもできることやできないことがあり，それぞれの個性であることを伝えることも大切である。できる程度を気にする児童もいるかもしれないが，少しでもできたら can を使って表現できること，少し得意だと思えるなら well をつけるなど，のびのびと表現させるようにする。

Small Talk で会話の意味を理解して， Let's Chant で練習をして， Let's Try で試してみる，という学習の流れである。

【Small Talk のポイント】

※実態に応じて， Small Talk と Let's Chant の順番を入れ替えてもよい。

※Small Talk を先に行う場合，次のように答え方を丁寧に導入しておきたい。

T: I can't play soccer. But I can play badminton. Can you play badminton?

S: できる児童が挙手する（「少しでもできるなら Yes だよ」と声をかける）。

T: (いっしょに言うように促しながら) Yes, I can.

S: Yes, I can. (挙手した児童がそれぞれに言う。)

T: Great!

(同じように， No, I can't.の答え方も伝える。)

Can you play ...? などを使っていろいろなスポーツについて，できるかどうか尋ねることができるが，指導者は動詞を意識して正しく使うようにする。※play the guitar など，楽器について尋ねてもよい。

Can you play (soccer, baseball, volleyball, table tennis ...)?

Can you do (kendo, judo ...)?

Can you (skate, ski, swim, golf, ride a unicycle ...)?

また，児童の返事に対して Great!, Nice!, Cool! (Yes に対して), No problem. (No に対して) など，表情や言葉で反応することも示範しておく。

【Let's Chant のポイント】

②I can swim. ③Can you swim fast? の二つのチャンツを通してしっかり口慣らしをさせる。

【Let's Listen①のポイント】

「play tennis, や play baseball など，選択肢の絵を英語で表現する → ①の音声を聞いて○△を書く → 答え合わせをする → ①の音声を一文ずつ一時停止してまねて言う」というパターンで①, ②と進める。

Mark や Yuna になってまねて言うことで，より理解が深まると思われる。

【Let's Try②のポイント】

指導者のできることやできないことを予想して，児童全員で指導者に尋ねることは，次に友達同士で尋ね合うための準備になる。指導者の Yes, I can.に対して児童が何かしら反応できるようにしておきたい。

児童同士で尋ね合う活動は，次時に「本時に聞いたことをもとにして友達を紹介する活動」をすることを踏まえて行わせたい。自由に相手を見つけて尋ね合ったり，ペアの一方が規則的に移動しながら相手を変えたり，指導者がペアの列を指定したり，普段会話が少ない児童同士を意識的にペアにしたりするなど，指導観を持ってペアを組ませるようにする。

Unit 4 He can bake bread well. (pp.40-41) 4/8 時間

<目標>

インタビューをもとに友達の名前と He/She を書き、その人を紹介する。

時間	児童の活動
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする。 【Let's Sing】 This is my town. ・元気に歌う
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> 【Word Link】 PD の p.17 家族 人 ・「家族」「人」の単語を復唱する。
	<ul style="list-style-type: none"> 【Let's Chant】 ①Who is this? ④She can sing well. ・チャンツを聞き、言う。
	<ul style="list-style-type: none"> 【Let's Listen②】 ・登場人物について話を聞き、名前と He / She を 4 線に書く。 <p>【評価例】 ○思（聞）相手のことをよく知るために、身近な人のできごとなどについて、短い話の概要を捉えている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 【Let's Try③】 ・さくらとルーカスになりきり、ペアで【Let's Listen②】のゆうなとこうたを紹介し合う。
	<ul style="list-style-type: none"> 【Let's Try④】 ・【Let's Try②】のインタビューをもとに、紙面に似顔絵を描いた上で、名前と He / She を 4 線上に書き、絵カードを置く。 ・記入した情報をもとに、ペアで紹介し合う。 <p>【評価例】 ◎知（話・や）[He/She can ～., Who is ～?, This is ～. およびその関連語句など] について、理解している。／◎技（話・や）《身近な人のできごとなどについて、》[同上] を用いて、お互いの情報や考えなどを伝え合う技能を身に付けている。／○思（話・や）自分のことを伝え、相手のことをよく知るために、《同上》簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの情報や考えなどを伝え合っている。</p>
文字指導 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> 【Sounds and Letters】 ・音声を聞いて、アクセントのある場所をぬりつぶす。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時および本時の活動をふり返る。 ・ふり返りシートに記入する。 ・挨拶をする。

【この時間のポイント】

ここでは自分以外の人を This is, He/She is, He/She canなどの表現を使って紹介することをめざす。名前や He/She を書き写したり、カードを置いて表現したりすることで、He/She の使い方や語順を意識してやり取りをできるようにすることがねらいである。

まず、Let's Sing, Word Link, Let's Chant までテンポよく進める。Let's Listen②と Let's Try③は一連の活動なので、Let's Listen②で聞くだけでなく、まねて口慣らしをするとスムーズにつながる。

Let's Try④で全員が友達を紹介できるようにするために、もし前時の Let's Try②を行っていない児童がいる場合は、本時まで補っておく。

【Word Link のポイント】

This is my town.の歌に続いて Word Link で家族や人の言い方を練習しておきたい。単語は「メトロラーニング」で口慣らしをするとよい（メトロノームのマークをクリック）。

その後で、例えば grandmother を聞かせて、This is my grandmother.と言わせるなど、「me」の立場になって家族を紹介してみると、身近な人紹介や友だち紹介（This is my friend.）につながる。

【Let's Chant のポイント】

①Who is this? ④She can sing well. の二つのチャンツを通してしっかり口慣らしをさせたい。

【Let's Listen②のポイント】

How do you spell "Yuna"と尋ねて名前の綴りを確認してから書かせるのもよい。

He/She を発音させながら書き写させるとよい。

書き込めたら再度紹介文を聞いて、1文ずつ言わせる。また、3文まとめて言うことに挑戦させる。

【Let's Try③のポイント】

Let's Listen②で言う練習ができていれば、Let's Try③は役割分担をして会話するだけの活動になるので取り組みやすい。

【Let's Try④のポイント】

本時の中心になる活動である。紹介するために短い準備時間を設定する必要がある。

紹介したい友達の顔や名前、He/She を書かせて、できごとの絵カードを巻末絵カードから選んで用意させる。できごとの数だけカードを用意して、置き換えながらできごとをいくつか話すようにさせる。前時にできるかどうか尋ねたのは4問であるが、巻末カードは10枚あるので、できそうだと予想することを実際に尋ねて紹介に加えることも考えられる。

紹介し合うペアは、教科書や複数枚のカードを持ち歩かなくても活動できるように、左右や前後のペアがよい。自分が紹介する友達とペアになってしまう場合は、席を交代するなどの配慮をしたい。

Unit 4 He can bake bread well. (pp.42-43) 5/8 時間

<目標>

身近な人紹介カードを作り、その人のできることなどについてたずね合う。

時間	児童の活動
導入 (7分)	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶をする。 <p>【Let's Sing】 This is my town.</p> <ul style="list-style-type: none"> 元気に歌う <p>【Small Talk】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導者からの質問に Yes, she can. / No, she can't. と答える。
展開 (30分)	<p>【Let's Chant】</p> <p>①Who is this?</p> <p>④She can sing well.</p> <ul style="list-style-type: none"> チャンツを聞き、言う。 <p>【Step1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 紹介する身近な人を決めて、巻末の「身近な人紹介カード」にその人物の絵を描く。 ペアでたずね合う。 <p>【評価例】 ◎思（話・や）自分のことを伝え、相手のことをよく知るために、地域の身近な人について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。</p> <p>【Step2】</p> <ul style="list-style-type: none"> 紹介する人の職業やできることなどを考え、ペアで伝え合う。 <p>【評価例】 ◎思（話・や）自分のことを伝え、相手のことをよく知るために、地域に住む身近な人のできることなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。</p>
文字指導 (5分)	<p>【Sounds and Letters】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導者が続けて言う3文字の名前を書きとる。
まとめ (3分)	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶をする。

【この時間のポイント】

ここでは、「身近な人を紹介する」ために、「誰を紹介するか」、「その人の名前や職業」、「その人ができること」（必要に応じて「その人のこと（kind など）」）を決めて、英語で表現できるように準備することがねらいである。

Let's Chant①～④を続けても3～4分なので、しっかりチャンツを使って復習したい。通しで復習してから本時の課題に取り組んでもよいし、Let's Chant①を聞いて Step 1 を行い、②, ③, ④を聞いて Step 2 を行ってもよい。

児童は巻末コミュニケーションカードで紹介したい人の顔を描くが、紹介文は音声で考えるので、下の例のような表現の手がかりを示しながら進めてみてはどうだろうか。どんなときに He/She isを使い、どんなときに He/She canを使うのかを視覚的にも整理できる。

【Let's Chant のポイント】 できたら Let's Chant①～④まで通して行いたい。

【Step 1, Step 2 のポイント】

これまでに紹介する表現を音声で何度も聞いているが、混乱しやすいので視覚的にも補助しながら紹介文を考えさせる。

Step 1 では紹介する人を決める。指導者も紹介する人の絵を簡単に描いておいて黒板の中央に貼る。ALT などがある場合は、Who is this? This is Keiko. などと言いながら絵を貼るとよい。

児童も巻末コミュニケーションカードに絵を描く。カードの裏にその人の名前を書いておいてもよい。



Step 2 では、指導者が絵の人を紹介し、伝えたいことと英語表現の組み合わせを視覚的にもイメージさせたい。または、児童に自由に考えさせてペアで伝え合った後で、「中間評価」として児童が使っている表現を上のように絵カードなどを使用しながら視覚化して、どう言えばよいかわからなかった語彙などを尋ねさせたりする流れも考えられる。

ペアで尋ね合わせた後、どのように反応を返せばよいかも考えさせたい。Great!, Nice!, Cool!などに加えて次時の映像でも使われている Sounds good!なども取り上げておくとよい。

音声での活動になるので、伝え合った後に、必要に応じて、巻末コミュニケーションカードの裏に「妹」「ピアノ、うまい」「かわいい」など、考えた紹介を簡単にメモさせておいてもよい。

Unit 4 He can bake bread well. (pp.42-43) 6/8 時間

<目標>

身近な人紹介カードを見せながら、ショー・アンド・テルをする。

時間	児童の活動
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする。 <p>【Let's Sing】 This is my town.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気に歌う。 <p>【Let's Chant】</p> <p>①Who is this?</p> <p>④She can sing well.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャンツを聞き、言う。
展開 (30分)	<p>【Step3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル映像を視聴する。 ・前時で作成した「身近な人紹介カード」をもとにショー・アンド・テルをする。 ・使用したカードを p.63 に貼る。 <p>【評価例】 ◎思（話・発）[自分のことを伝え、相手のことをよく知るために、地域に住む身近な人のできることなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを]話している。／○主（話・発）[同上]話そうとしている。</p>
文字指導 (5分)	<p>【Sounds and Letters】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声を聞いて、アクセントのある場所をぬりつぶす。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時および本時の活動をふり返る。 ・ふり返りシートに記入する。 ・挨拶をする。

【この時間のポイント】

ここでは、前時に作成した「紹介カード」の絵を見せながら、ショー・アンド・テルをする。場面設定は学級の実態に応じて調整するが、一人ひとりが前で発表するには時間がかかる。やり取りをしながらのショー・アンド・テルになるので、グループ活動が適している。

【Let's Chant のポイント】

①Who is this?と③She can sing well.は本時のショー・アンド・テルで使う表現である。チャンツを聞き、言った後、ショー・アンド・テルの個人練習を行うとよい。

- T: 「自分が描いた紹介カードの人を紹介しましょう。」
- T: Who is this? (児童全体に一斉に尋ねる。)
- S: それぞれが自分の紹介カードを見て言う。“This is”
- T: Who is ... (その人) ?
- S: それぞれが声に出して紹介する。

【Step 3 のポイント】

ALT や JTE がいる場合は HRT とモデル会話を行い、児童が準備している表現以外の「会話を自然に継続する表現」に着目させる。これらは必ず使うべき表現ではないので児童の実態に合わせて取り入れるとよいが、児童が使うためには事前に練習させておく必要がある。

- ・“Please look at my card.”と言いながら絵を見せる場面：
全員で自分の絵を見せながら言う練習をするとよい。
- ・会話が終わって“That’s all. It’s your turn.” “OK. It’s my turn.”の場面：
ジェスチャーをつけて指導者と児童全員で練習して、児童のペア同士でも練習させたい。

4人くらいのグループでショー・アンド・テルを行うと、聞き手である3人が一緒に質問したり、「会話を自然に継続する表現」を教え合ったりできるので、お互いに学びながら進めることができる。グループ内の活動で「身近な人紹介」を楽しみ、慣れてから、時間があれば、グループ外の友達とペアになって紹介してみる。

さらに、一人ひとりの達成状況を見る場合は、第7時の Challenge のための絵を描かせる時間に、一人ひとりが指導者に対してこの「身近な人紹介」をするという場面を設定してもよい。

Unit 4 He can bake bread well. (pp.44-45) 7/8 時間

<目標>

世界の町で働く人々について考え、世界と日本の文化に対する理解を深める。

時間	児童の活動
導入 (7分)	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする。 <p>【Let's Sing】 This is my town.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気に歌う。 <p>【Small Talk】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者からの質問に Yes, he can. / No, he can't. と答える。
展開 (30分)	<p>【Let's Chant】 Option Chant</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャンツを聞き、言えるところは言う。 <p>【Do you know?】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ、ペルー、イタリア、タイの町で働く人々の職業を通して、異なる文化について考え、意見を発表する。 ・「まめちしき」の内容を確認する。 ・クイズの答えを考える。 ・答え合わせをする。 <p>【Challenge】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元で働いている人について考え、簡単な絵を描き、紹介し合う。 <p>【評価例】 ○主（話・や）外国語の背景にある文化に対する理解を深めるために、町で働く人々について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。</p>
文字指導 (5分)	<p>【Sounds and Letters】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者が続けて言う 3 文字の名前を書きとる。
まとめ (3分)	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする。

【この時間のポイント】

Over the Horizon の Challenge は、Unit 1～3 まではその場で考えたことを音声でやり取りする活動であったが、Unit 4 からは簡単な絵や資料などを使って友達とやり取りする活動を扱うことになる。

地域で働いている人を紹介するうえで、本時に全員で絵を描いて紹介することが難しい場合は、準備や発表の時間を本時以外の時間に行う方法も考えられる。

【Let's Chant のポイント】

児童の理解に応じてチャンツを選択したい。

- ・Let's Chant①～④の扱いが不十分だと思われる場合は、それらを繰り返すことで表現に慣れさせる（その場合、Option Chant を扱う必要はない）。
- ・「I, You, He, She」の区別を意識させたい場合は、Option Chant を扱う。チャンツに合わせて「I」「You」「He」「She」のカードを見せてもよい。何度か繰り返しながら、「Emily が話していること」を確認し、You, He, She が誰を指しているのか尋ね、「誰のことを言っているのかが分かっているのだから、You, He, She に置き換えている」という感覚を伝えたい。

【Challenge のポイント】

児童が地域で働く人を授業以外の時間でゆっくり考えることができるようにする。Challenge の活動を指導書の指導計画通り第7時に行う場合と、第8時に行う場合とが考えられる。

- ・Challenge を第7時に行うために、前時から準備させておく場合：
児童は前時で身近な人を紹介し合っている。友達、先生、家族、知り合いなど多様な人が考えられる。そこで、「次時では地域で働く人を紹介してみよう」と伝えて考えさせておく。
- ・Challenge を第8時で行うために、第7時で準備をさせておく場合：
【Do you know?】の後、「他にどのような仕事があるのだろう」と『Picture Dictionary』を使って「仕事」の言葉をまねて言い、イメージを広げる。そして、「次時に Challenge のように伝え合うので、紹介する人の絵を簡単に描いてきましょう」と児童にワークシートを渡しておく。

【Challenge の変形版】

準備をさせずに「その場で考えて紹介する」活動にすることも一案である。

指導者が、地域で働く人の例として、行事等の場で、先生方や保護者などが写っている写真を用意する。写真の中の人について、“This is He/She is”と説明する。

また、設定を地域から日本中に広げて、歌手やスポーツマンなどの写真も用意すると、仕事の種類が広がる。例：This is She is a singer (comedian, soccer player など) .

Unit 4 He can bake bread well. (pp.44-45) 8/8 時間

<目標>

英語と日本語との違いを知り、世界と日本の文化に対する理解を深める。

時間	児童の活動
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする。 <p>【Let's Sing】 This is my town.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気に歌う。
展開 (30分)	<p>【Let's Chant】</p> <p>Option Chant</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャンツを聞き、言う。
	<p>【ことば探検】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家族」を表す日本語と英語を比べて、気付いたことを話し合う。 ・気付いたことを右のメモ欄に記入し、発表する。
	<p>【日本のすてき】 Dorian Sulis (ドリアーノ・スリス) さん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Sulis さんについての映像や音声を視聴し、おおよその内容を理解する。 ・空欄に答えを記入する。 ・答え合わせをする。 <p>【評価例】 ○主(聞) 外国語の背景にある文化に対する理解を深めるために、日本在住の外国出身の人について、短い話の概要を捉えようとしている。</p>
文字指導 (5分)	<p>【Sounds and Letters】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声を聞いて、アクセントのある場所をぬりつぶす。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時および本時の活動をふり返る。 ・ふり返りシートに記入する。 ・挨拶をする。

【この時間のポイント】
 この Unit では「できることやできないこと」を話したり、身近な人や地域の人を This isや He/Sheを使って紹介したりしてきた。新たな語彙や表現が多いため、児童の理解が不十分に思われる部分もあったかもしれない。
 児童の理解度に応じて、必要ならばこれまでに使ってきた表現や語彙を復習する時間を多めに取ってもよい。

【Let's Chant のポイント】
 児童の理解に応じてチャンツを選択したい。
 ・Let's Chant①～④の扱いが不十分だと思われる場合は、それらを繰り返すことで表現に慣れさせる(その場合、Option Chant を扱う必要はない)。
 ・「I, You, He, She」の区別を意識させたい場合は、Option Chant を扱う。チャンツに合わせて「I」「You」「He」「She」のカードを見せるのもよい。何度か繰り返しながら、「Emily が話していること」を確認し、You, He, She が誰を指しているのか尋ね、「誰のことを言っているのかが分かっている」ので、You, He, She に置き換えている」という感覚を伝えたい。

【ことば探検のポイント】
 日本語と英語の違いに気付かせると同時に、英語そのものの音声にも注意させる。それぞれの単語は意外と発音が難しい。よく聞いて、まねて英語らしい発音で言うことにも挑戦させたい。

【日本のすてきのポイント】
 音声を聞かせる前に、写真からドリアーノ・スリスさんの仕事を想像させる。「後ろにある楽器は何か」、「楽器の演奏者かもしれない」など、自由に推測させる。1回目は「ドリアーノさんの仕事は何か」だけを聞き取らせる。2回目は、途中で止めながら聞かせてもよい。
 例：「福岡に住んでいると言うところまで」 → イタリア出身、福岡在住
 ※次のように英語で言いながら確認してはどうだろうか。
 T: He is from ...? S: Italy.
 T: He lives in ...? S: Fukuoka.

 「仕事は何かを言うところまで」 → 琵琶修復師
 「最後まで」 → 聞き取れたことを自由に発表させる